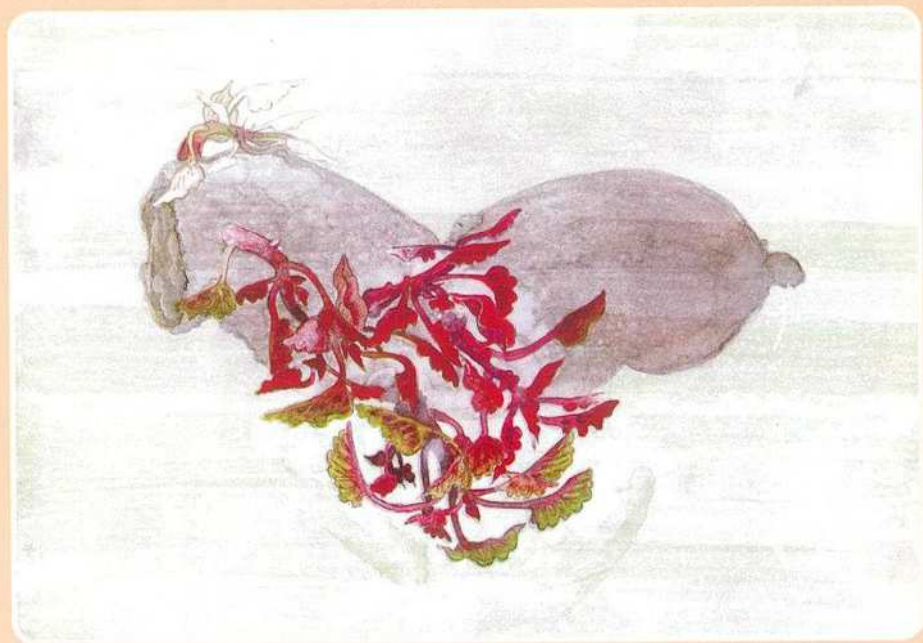


楓



通卷第613号

2023. 9 · 10

ラジオ番組『見えないバリア』を制作して

18年の時を経て

福井県立若狭東高等学校

放送部顧問 村上 恵

2005年11月、故高瀬重二郎氏によって、本校との交流の記念に一本の桜の木が植樹され、「人権桜」と名付けられました。この「人権桜」には、高瀬氏の「ハンセン病を正しく理解するには若者の情熱と行動力しかない。桜が大きくなる頃には差別偏見のない社会になってほしい。」という願いが込められています。

若狭東高校放送部としては、2006年から高瀬氏をはじめ福井県出身の回復者の方々との交流が始まりました。その交流活動をきっかけに、人

権桜を主人公とした紙芝居を制作し、地元の小学校でハンセン病についての啓発活動、小浜市社会福祉協議会様の支援により長島愛生園や邑久光明園への訪問交流、福井県の事業であるハンセン病回復者里帰り事業において吉田藤作氏らと本校での交流、コロナ禍でのオンライン交流、記念碑の設置など、15年以上に渡り回復者の皆様と交流を続けさせていただいております。また、放送部からできることとして、NHK杯全国高校放送コンテストにおいて、アナウンス部門での発表や、テレビドキュメント番組『桜に込めた想い』（優良賞受賞全国5位）の制作などによる、ハンセン病に関する啓発活動を行っています。そして、今年、山内宅也氏、屋猛司氏より多大なご協力をいただいて制作したラジオ番組『見えないバリア』が、

第70回NHK杯全国高校放送コンテストラジオドキュメント部門において優良賞（全国5位）を受賞いたしました。

番組のメッセージとしては、「目に見えない心の中のバリアフリーを進めていき、みんなと一緒に優しい社会を創っていきましょう！」というものになっています。7分という短い時間の中で、どれだけの情報を含め、何を伝えられるのか生徒とともに考え、差別はダメだという押し付けではなく、聴いた人が自然と考えてくれる番組になるように制作しました。番組を組み立ててはコメントを削り、またコメントを付け足し、その繰り返しの日々でした。しかし時間をかけた分、完成したときの、制作した生徒の表情はやりきった満足感であふれていました。そして、完成した番組は県大会を通過し、全国大会へ出場を決めました。全国大会では、各県大会を通過してきた200本の中から上位40本に選ばれ、準決勝に進出、最終的には優良賞を獲得できました。

番組制作の中では、インターネットで情報収集をしたり、回復者の方々から生の言葉を聞かせていただいたりしました。それらを通して、生徒たちは考えることや感じるものがたくさんあったようです。想像もできない事実と言葉を失う生徒もいました。しかし、この経験は生徒たちのこれからの人生において必ず意味のあるものになります。自分の身近なことに置き換えて考えたり、歴史を知った上でそれを繰り返さない意識を持つたりできる、ハンセン病だけに限らず、身の回りで見られる差別や偏見に気付くことができる大人になっていってほしいと願います。

人権桜が植えられた年に生まれた彼らが18年間生きてきて、そしてハンセン病を通して自分たちの未来を考えていく。桜が植えられてから年々大きくなっていく様子を見てきたからか、私個人としては今回の番組制作について少し運命的なものを感じていました。高瀬さんの願い通り、若者が優しい社会を作ろうとしている、その瞬間に携わ

れたことを幸せに感じます。

番組制作を通して

3年 三宅 幸喜

今回の番組制作を通して、ハンセン病で実際に差別を受けた人の声を聞くということが大切だとわかりました。私は、番組を作ろうと決めるまで、ハンセン病のことは知りませんでした。そもそもなんの病気なのかということもよく分かっていませんでした。そこで、実際にお話をお聞きする前に、ハンセン病とはどんな病気か、どのような歴史があるのかを自分の言葉で伝えられるようになるまでインターネットで調べました。

今回の番組では、過去に若狭東高校とハンセン病回復者の方との交流で植えられた「人権桜」と

いう桜があることや、その人権桜に込められた想いなどを高校生目線で伝えられるように制作しました。番組の中では山内宅也さんの「バリアフリー」という詩を使っています。詩の中に「偏見差別という古い段差や石ころの路につまずいている人も多くいる」という部分があります。新型コロナウイルスが流行した時にも偏見や差別が起こっていたため、私はこのフレーズから、世の中では物理的な段差をなくしたり車椅子用のスロープをつけたりと目に見えるバリアフリーは進んでいます。が、目に見えない心の中のバリアフリーはまだまだ進んでいないように感じました。

これからの社会を創って行くのは高校生である私たちなので、目に見える段差を無くしていくのも大切ですが、番組を通して、目に見えない段差も無くして行けば明るい未来になるということも伝えたくて山内さんの詩を使わせていただきました。

私は高校3年生なので3月で卒業となります。

これから先、進学先の友達や仕事場の人たちなどに、新型コロナウイルス流行時の例を交えながらハンセン病のことを伝えていきたいと思っています。これから先どのような病気が流行するかかわりません。しかし、回復者の方から教えていただいたように、間違った歴史を繰り返さないために、勝手な思い込みで差別することや、知らないということから憶測や偏見の目で見ることが起こらないように、同世代の若者たちに伝えていきたいと思っています。



偏見差別のない社会になって欲しいという願いをこめて植えられた「人権桜」



若狭東高等学校放送部のみなさん